

医療専門職(メディカルスタッフ)のはてな??

第8回 医療事務編

■医療事務とは?

医療事務とは、病院やクリニックなどの医療機関で、事務や経理などの業務を行う仕事です。医師や看護師をサポートする専門家ともいえます。また同様に「病棟クラーク」と呼ばれる仕事もありますが次回紹介させていただきます。

■医療事務になるためには?

医療事務の資格試験は複数の団体・法人が主催しており、資格は10種類以上に及びます。このように資格が多岐にわたっている理由として、「国家試験による国家資格・公的資格がない」という点が挙げられます。

医療事務の各資格は、医師免許や看護師免許のような公的な資格ではなく、「この人はこれだけの知識を持っていますよ」ということを証明する、漢字検定や英検のようなものだと考えるとわかりやすいかと思います。

■医療事務の仕事内容

○受付・カルテ作成業務

・病院で患者さんがまず行くのが受付です。患者さんから症状を聞き、保険証や診察券を確認、カルテを作成して外来へカルテをまわします。

○コンピューター入力業務

・診察が終わったら、行った検査や処置、処方された薬などをすべて入力をして会計へカルテをまわします。会計へ請求書を出すのと同時に、薬局へ処方箋をまわします。

○会計業務

・診察終了後、患者さんの個人負担分の会計をします。

○診療報酬請求業務(レセプト業務)

・保険診療の基本は、患者さん本人と、患者さんが加入している保険者で負担されています。例えば患者さんの負担が3割の場合、残りの7割を保険者に請求しなくてはなりません。

病院の収入の大半を占める診療費、この診療費の請求手続きを診療報酬請求業務と言い、病院の経営に関わるとても大切な業務です。

■健康保険の種類と自己負担割合

- 後期高齢受給者…75歳以上の方で一般・低所得者の方は1割負担(現役並み所得者の方は3割)
- 前期高齢受給者…70歳から74歳までの方は2割 ※特例で1割(現役並み所得者の方は3割)
- 国民健康保険
6歳から70歳の誕生日月まで3割
- 社会保険 ※義務教育就学前までは2割
- 保険診療だけでなく、交通事故・労災・健康診断・大阪市健診等も行っております。

	一般・低所得者	現役並み所得者
75歳	1割負担	3割負担
70歳	2割負担 ※平成26年4月以降70歳になる者から	3割負担
6歳 (義務教育就学前)	3割負担	2割負担

■時間外にかかる診療について

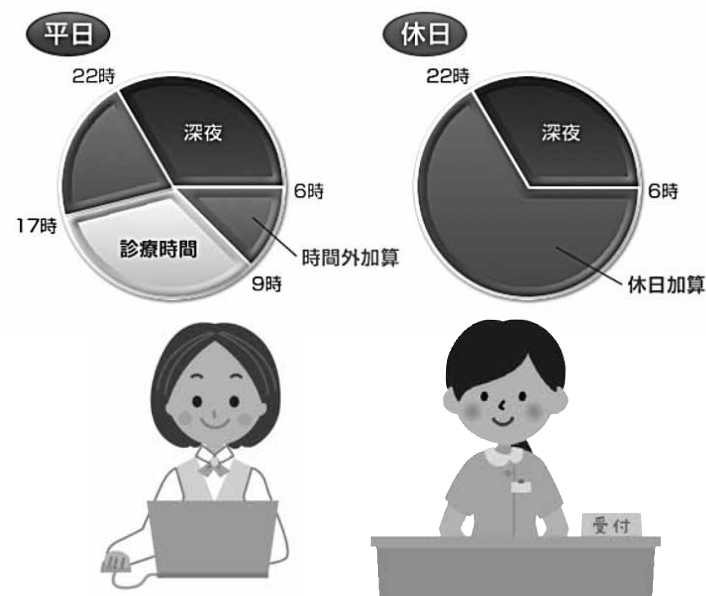
休日や深夜、通常の診察時間帯以外の時も24時間、救急の対応を行っております。

医療機関では、診療時間帯以外の診療は時間外加算を算定できるようになっています。

時間外加算の時間帯について

平日(夜診あり)	6:00~8:59、20:00~21:59
平日(夜診なし)	6:00~8:59、17:00~21:59
土曜	12:00~21:59
休日	6:00~21:59
深夜	22:00~ 5:59

※時間外、休日、深夜それぞれ加算の金額が異なります。



FUKUSHIMA INFORMATION 2016 AUTUMN



福島インフォメーション

地域に密着した良心的な医療を提供する事を使命としています。

発行 医療法人永寿会
福島病院
 〒935-0012 大坂市旭区千林2-4-22
 TEL.06-6953-2940(代)
 FAX.06-6953-2918
 ホームページアドレス:
 http://www.fukushima-hosp.or.jp
 ■発行日/平成28年 11月

■理念

24時間いつでも誰でも気軽に利用できる、地域に密着した皆様病院をめざします。

■基本方針

正確な診断に基づいて最適な医療機関での治療をめざします。幅広い患者のニーズに細かく対応して、患者だけでなく従業員自身も安心して知人や身内を紹介できる病院をめざします。

■診療科目

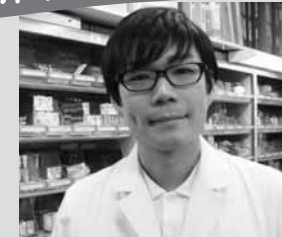
- 外科・消化器外科・肛門外科・整形外科
- 内科・糖尿病内科・消化器内科
- 脳神経内科・人工透析内科
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 麻酔科



新入職員紹介

- 本田 あさみ(看護師)
- 小西 潤治(薬剤師)
- 鳥 恵美子(看護師)
- 竹田 愛美(管理栄養士)
- 安岡 めぐみ(看護助手) (平成27年10.1~平成28年8.30入職者)

新卒職員紹介



薬剤師 小西潤治

この度薬剤科でお世話になることになりました小西潤治です。本年大阪薬科大学を卒業し国家試験に合格しました。大阪生まれ大阪育ちの独身男性、現在26歳です。趣味は野球観戦で、阪神タイガースを応援し甲子園によく足を運びます。勝利の「六甲おろし」は格別です。(笑) 最近では8月2日中日ドラゴンズ戦を観戦に行きました。当院ではバックネット裏の年間シート(東芝シート)で観戦できるのでとてもありがたいです。(ミット音がすごいです!!)阪神タイガースの話になると止まらないのでこれぐらいにしておきます。

当院へはホームページを拝見し見学し際には、アットホームな雰囲気を感じ採用応募しました。実際に働いてみて、懇切丁寧な先輩方が指導していただけるので、とても働きやすい環境でした。私が薬剤師を志望した理由は、これからの時代、薬の知識を持っていることは自分にも家族にもとても大事であると思ったからです。この知識を患者さんと福島病院のために活かせるよう頑張っていきたいと思います。皆様これからもよろしくお願いいたします。(薬局窓口では阪神タイガースのお話はできませんが…)



栄養科より

当院の行事食について紹介させていただきます。

栄養科季節のメニュー

当院入院中のお食事は冷凍野菜や既製品を出来るだけ使用せず、地域の八百屋さんから旬の野菜や果物を仕入れ、献立に取り入れています。行事食は年間に14回程度実施しており、柏餅やショートケーキなど全て手作りしています。食事と一緒に行事にちなんだ手作りカードも添えて、より一層季節感を感じて頂けるようよう努力しております。



～愛すべき職場～ 透析室(人工透析内科)

当院透析室は1990年に5階フロアに開設され現在17床、月給金は朝夕の2クール、火木土は朝のみの1クールで透析治療を行っています。患者さんのほとんどが近隣の方で、徒歩、自転車、送迎車などで通院されています。(送迎車の利用は月～土の1クールの方のみとさせていただきます。)

開設当時3名だった患者さんが平成28年9月現在で40名以上となっています。それではスタッフの紹介です。看護師5名(臨床工学士1名兼任)とやや少なめな人員ですが、透析経験豊富なベテランが多く、親切丁寧に愛情込めて看護しております。

当院透析室の特徴は①入院施設があり②リハビリテーション施設も兼ね備えていて、また③救急病院であるため緊急透析なども対応しております。そのため各部署との連携も密にしております。担当医師は常勤医が個々の患者さんを受け持つようになっておりますが、主として南院長、高橋副院長が中心となっております。

透析患者さんは週に3回4時間の透析をしなくてはならず、本当に大変です。私たち透析スタッフは時に家族のように、時に医療関係者の眼で患者さんに何が必要かを考え行動するようにしております。優しい時もあれば厳しい指導もあり、しかも安全性を考えた看護を提供しております。

透析室では「安全を第1に考え、迅速かつ正確な対応ができること」を目標として勤務しており、患者さんにも理解していただいております。

透析室の今後ですが、患者さんの高齢化により個々にあった医療が必要になってきています。私たちスタッフもその流れに逆らわず、老体に鞭を打ち頑張っていきたいと思っております。



10年勤続表彰



副院長
高橋 栄男

「福島病院に勤めて」

福島病院に勤めさせて頂き、10年が過ぎました。あつという間の感じです。個人的なことを述べるのも良いのですが、糖尿病の診察も非常に進歩していますので、最近の話題を話させて頂きます。糖尿病がある人は10年ほど、健康寿命が短くなります。治療しないと脳卒中・心筋梗塞は2～3倍多く発症します。壊疽のため、下肢切断は毎年3000人、糖尿病のため透析になる人は毎年15000人、眼底出血で失明する人は3300人居られます。放置して置くと、早く長く寝たきりになる可能性があるのです。また、認知症も2倍起こりやすくなるのが分かりました。

年を取ると血管が傷み動脈硬化が起こります。ある程度、仕方ありません。

血糖・血圧・コレステロール・タバコの四つが動脈硬化を進めます。一つで2倍、二つで4倍、三つで8倍、四つで16倍起こりやすくなります。

糖尿病による合併症の発症率が昭和の頃より半減しました。(残念ですが、糖尿病患者の増加、患者さんの高齢化のため、率は半減しましたが、患者実数は横ばいです。)これらは大規模研究(数千人規模の患者さんを観察した研究)の発表と並行しています。コレステロールを下げるスタチンを飲むと糖尿病患者の合併症が半減しました。低ければ低いほど合併症が少なくなります。(The lower, the better)

アメリカでは2型糖尿病患者には、コレステロールの値が高くなくても、スタチンを飲ませることが推奨されました。血圧も130-70mmHg付近が最も合併症が少なくなることが報告されています。高血圧は良くないが、低すぎるとよくないようです。(Jcorve現象)。タバコは動脈硬化、癌の発症(男子1.6倍、女子1.5倍)に深く関与しています。

さて、糖尿病ですが、血糖が低い方は合併症が少ないことは分かっていますが、治療して、本当に合併症が減るのかははっきりしていません。眼底出血や腎症(透析)の予防効果が大きいのですが、動脈硬化(脳卒中、心筋梗塞など)の予防効果は小さい効果しか証明できていません。強い薬(SU剤)やインスリンを多量に使って血糖を下げて、肥満になったり、低血糖を起こすとその効果は小さくなってしまいます。やはり、食事療法・運動療法を無視することは出来ないのです。

低血糖は転倒骨折・認知症の原因になることも分かりました。強すぎない薬剤をまず使い、強い薬は最小限に留めるようになりました。治療薬も開発され、低血糖の少ないDPP4阻害剤、癌の少なくなるメトホルミン、食欲を抑えるインクレチン注射剤、尿から300Kcal排泄させるSGLT2阻害剤、長時間効果が一定となる持効型インスリンを上手に使うことが望まれます。最近の報告では、尿糖を排泄させるSGLT2阻害剤は全死亡を32%、心血管死を38%減らすことが報告されました。また、腎症の悪化、透析導入も半減させました。血糖を下げる薬で、これだけ、合併症が予防できたので、大騒ぎになっています。しかし、先に述べたように、禁煙・コレステロール・血圧の治療が既に大きな予防効果を上げています。算数も大切ですが、国語・理科・社会科も同じ程度重要であることを忘れてはいけません。

イギリスのケンブリッジ大学からの報告によると、イギリスでは認知症の発症率が低下したとのこと。糖尿・血圧・コレステロール・禁煙といった動脈硬化を予防する治療が結果的にアルツハイマー型認知症の発症率を低下させたと考えられています。

最後に、高齢者が増加しています。残念ですが、年を取るほど糖尿病になる人も増えます。高齢者になると、痩せる人、特に筋肉が痩せる(サルコペニア)、虚弱な人(フレイル)が増えます。筋肉が痩せないようにするために、タンパク質(肉、魚、豆腐、卵)を食べて、運動する必要があります。ダンベル体操やスクワットなど少し力を入れる運動(レジスタンス運動)が効果的です。

高齢者糖尿病患者では痩せるのは良くないと思います。(元々太っている人は別)糖尿病の目標もSU剤やインスリンを使う場合は正常を目指すと低血糖が心配されるので、70点程度が推奨されました。以前は、卵はコレステロールのため制限がありましたが、最近の研究では食べるコレステロールを制限しても動脈硬化予防には効果があまりないことが分かりました。スタチンを飲み、卵を食べる方が良いでしょう。タバコを吸わず、若いうちは太らない、年を取ってからはタンパク質を摂って痩せない。一生、適度な運動・会話・仕事を続け、血糖・血圧・コレステロールの手入れをすることが最大の健康法だと思います。



2016年 福島病院 院内行事 (ここに挙げたのはごく一部です)

病院慰安旅行が5月にありました。1泊2日の楽しい旅行でした。



赤穂・大石神社



やっぱり飲み過ぎました



姫路城見学

毎年、春と秋にバーベキュー大会を開催しています。この春はなんと60名以上の参加がありました。



春のBBQ大会

美味しいお肉に大満足



総勢60名以上、大所帯

7月には除細動器の勉強会がありました。真剣なまなざしで、質問していました。



除細動器の勉強会

7月に実施しました

入職3年目の看護師さんによる救急看護の勉強会。人形を使っただけの指導は大変勉強になりました。



救急看護の勉強会

大変勉強になりました



講師は高橋先生です

的確な指示
ありがとうございました!

